

20160911 「ピンチがチャンスに」

目標：パウロがローマへ行く状況を通常とは異なる信仰の視点で見直し、自分に起きる出来事についても信仰の視点から見つめ直せるようになる。

聖書箇所：使徒23：1-35 時間：10分

暗誦聖句：「しっかりせよ。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかししなければならない」（使徒23：11）

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：当該箇所は登場人物も多く、内容が豊富で入り組んでいる。子供たちにはパウロの生涯を大づかみに掴むに留め、主の御計画の壮大さに心を向かせたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	パウロさんの最後の大旅行についてお話をします。パウロさんは、最後に、今のイタリアのローマと言うところに伝道旅行に出かけました。エペソで伝道していたパウロさんは、神様に示されて、エルサレムに行きました。		元々ローマ宣教が願っていたことに触れると、この逆方向のエルサレム行の異様さが分かるだろう。
課題探究	6分	エルサレムでパウロはユダヤ人たちに捕まってしまうのですが、生まれながらのローマ市民権を持っていたので、ローマ帝国の裁判を受けることになったのです。その裁判で、パウロは、ローマ皇帝自身の裁判を受けたいと申し出て、認められたのです。パウロさんが当時のローマに行きたかったのは、そこが当時の全世界の中心だったからです。ローマ帝国の裁判を受けると言うことで、パウロはローマの歩兵二百人、騎兵七十人、槍兵二百人で護衛することになったのでした。パウロは囚人として裁判に行くはずでした。皆だったら、どんな感じをうけますか。これほどの兵士にとり囲まれては、絶対に逃げられません。皆さんならどんな気持ちになりますか。さて、パウロさんは、実は、暗殺集団に命を狙われていたことが聖書に記されています。	<ul style="list-style-type: none"> ・いやだなあ。 ・いやだなあ 	<p>色々なやり取りが記されているが、分級で触れるなどして、ここでは大雑把に説明するにとどめる。ただし、命が危ういところまで行ったことには触れること。</p> <p>例える際は、今の東京と大阪と京都が一緒になったところなどとする。</p>
まとめ	2分	パウロさんは、どんな気持ちで兵士を見つめたと思いますか。パウロは前日夜、神様から暗誦聖句の御言をいただいていたのです。御言を戴いて見上げたとき、同じ風景が神様に守られた全く違う風景になっていることが、あるのです。イエス様の福音を伝えるパウロの背後には、いつもイエス様がいました。肩を抱いて希望の光を見せて下さるイエス様を、私たちも多くの人に伝えていきましょう。暗誦聖句	<ul style="list-style-type: none"> ・心強い。 ・神様ありがとう ・(暗殺者に向かって)やーいやーい 	<p>「イエス様のために」を付け加えると、ここでの葛藤はより深くなるだろう。</p> <p>板書する「絶対に逃げられない」</p> <p>暗殺集団が四十人ほどもいたこと、殺すまで職を立つ誓いをしていたことなどに触れると、この緊迫度合いが深まるだろう。</p> <p>パウロ一人を四百七十人が囲んでいる状況を想像させたい。</p> <p>御言による励ましに現実が付随してくると言う順番を意識しながら話していきたい。</p> <p>客観的な厳しい状況は変わらないのに、信仰の目で見ると希望を見出せることに、気づかせたい。ここが世の人と信仰者の違いだからである。</p> <p>185号のテーマからの反映。</p>